

ブルーカーボンについて

- 2009年10月に国連環境計画(UNEP)の報告書において、海洋生物に取り込まれた(captured)炭素が「ブルーカーボン」と命名され、吸収源対策の新しい選択肢として提示された。
- 四方を海に囲まれた日本にとっては、沿岸域の吸収源としてのポテンシャルは大きく、ブルーカーボンの活用に当たっては、その評価方法や技術開発の確立が重要となる。

ブルーカーボンに関与する海洋生物の例

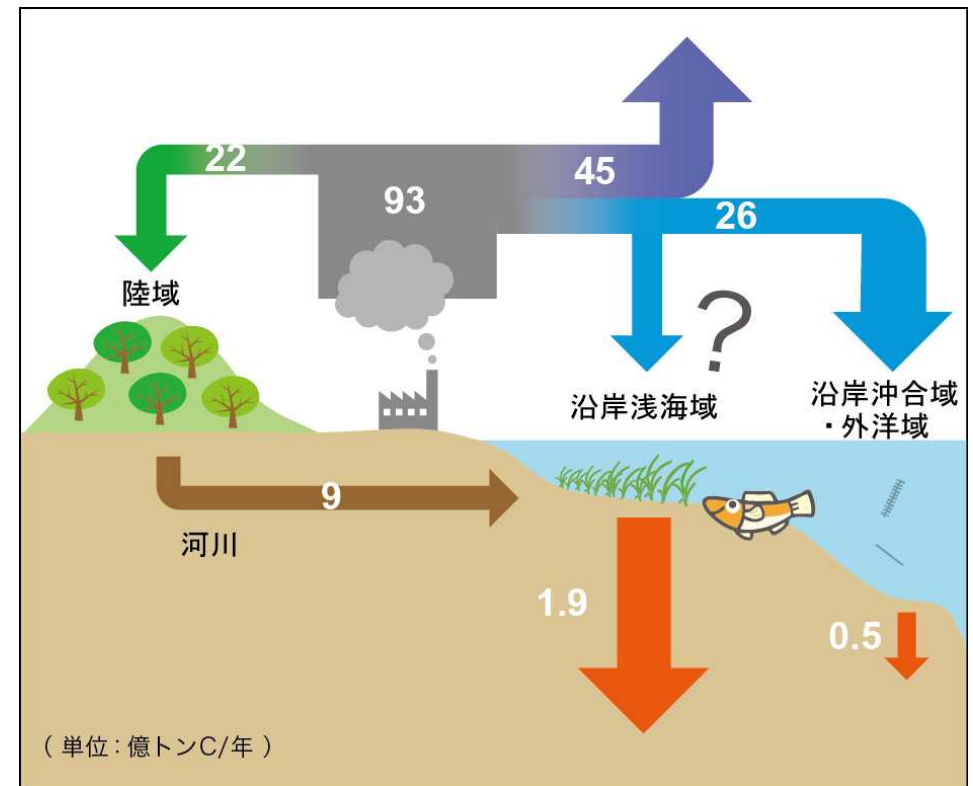


アマモ



干潟

炭素循環のイメージ



出典:「ブルーカーボン」(地人書館)